



NEC 田んぼ作りプロジェクト withアサザ基金 2011年度活動報告



■ 2012年度のNEC田んぼ作りプロジェクト年間スケジュール(予定)

◆=メインイベント、★=達人コース

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|-------------------------|-------------------------|-----------------------|---------------|------|-------------------|----------------|--------------|----------------|-----------------|-------|--------|
| 東田中 | ★苗床作り ★田起こし ★くろぬり | ★代掻き ◆田植え | ★一の草 ★二の草 ★畦手入れ | ◆草取り ★畑手入れ | | ★畑手入れ ★リッツオウ作り | ◆稲刈り | ★脱穀 ★わら収穫 | ★堆肥作り ★縄づくり | ◆酒仕込み ★仕込み体験 | ★堆肥管理 | ◆新酒蔵出し |
| 上太田 | | ★苗床作り、 ★田起こし ★田植え | ◆田植え ★一の草 | ★二の草 ◆草取り | ★道整備 | ★竹林整備 | ★稲刈り準備 ◆稲刈り | ◆脱穀 ★復田作業 | ★復田作業 | | ★道整備 | ★道整備 |

※生物調査(1回/月)



(オオムラサキ) (マルタンヤンマの孵化) (ツノトンボ) (タイコウチ) (シュレーゲルアオガエルの産卵) (キクモ) (ミズワラビ)

■ 広報関係

- 【新聞・広報誌掲載:3件】
朝日新聞、茨城新聞など
- 【教材:1件】
最新図説・現社(浜島書店)
- 【テレビ:1件】
NHK「道徳ドキュメント」
- 【表彰:1件】
石岡市東田中「感謝状」



石岡市東田中地区からの「感謝状」

■ 「愛酏で笑呼」の活用

営業での拡販支援ツールとして、また支社のイベント等を通じて「愛酏で笑呼」をお客様に楽しんで頂いています。社員の環境意識啓発活動によって作られた純米原酒は、大変評判が良く、プロジェクトの取組に対する評価と共に褒めめ言葉も多く頂いています。



お酒の名前「愛酏で笑呼」は、“お酒”で“酔い”を楽しみ、みんなに“笑顔(幸せ)”を呼び込みたいという思いを込め、「IT、で、エコ」にちなんで命名しました。

■ その他のNECグループにおける生態系・生物多様性保全活動の紹介

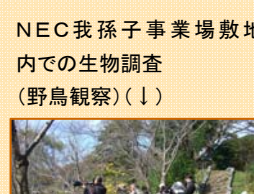


(↑)NEC本社ビル周辺に生息していた、準絶滅危惧種の植物「マツバラン」の保護活動

NEC本社ビル近くの芝公園での自然散策と花壇整備(↓)



(↑)NEC府中事業場近くの浅間山(せんげんやま)での里山保全活動(「ムサシノキスゲ」の苗の植え付け)



NEC我孫子事業場敷地内での生物調査(野鳥観察)(↓)

この他にも、NECグループではグローバルに生物多様性保全活動をおこなっており、2011年度は8,000名を超える社員とその家族が活動に参加しました。

日本電気株式会社

〒108-8001 東京都港区芝五丁目7番1号
発行:2012(平成24)年4月
お問合わせ先:CSR・環境推進本部 環境推進部
E-mail:info@eco.jp.nec.com
TEL:(03)3798-6617(ダイヤルイン)
FAX:(03)3798-9186

▶NEC田んぼ物語ホームページ

<http://www.nec.co.jp/eco/ja/management/education/tanbo/index.html>

【事務局より】

一昨年の猛暑、そして2011年3月11日の東日本大震災。自然からの猛威を感じる年が続き、このような中で、私たちが自然と共存し、生態系・生物多様性保全活動として何ができるのか、また何をすべきか。多くの方が考えた一年だったのではないかと思います。NEC田んぼ作りPJでは、再生した谷津田を維持し、そして当初からの目標である、「トキの野生復帰」を目指し、これからもNECグループ社員と地元地域の皆さまにとって意味のある活動となるよう努めてまいります。

▶NEC田んぼ物語モバイルサイト



2011年度の活動概要

■ 8年目の活動概要とこれからの期待

2011年3月11日、新酒蔵出しイベントの前日に東日本大震災が発生し、NEC田んぼとその周辺地域にも影響が及びました。しかし、現地の被害も早期に復旧し、2011年度も計画通り田植えから活動を開始することができました。心配された放射能の影響もイベント活動や作物へ大きな影響を及ぼすレベルには至らず、一年間無事に活動を継続できました。参加者皆さんのご理解やボランティアの方々のご協力のお陰です。また、2011年度から新たに再生した牛久市上太田地区の谷津田(約1,800平米)での活動も順調に実施でき、期待通りの収穫を得て新酒に仕込むことができました。2011年度は田植え体験や稲刈り・脱穀などのメインイベントと達人コース、ボランティアを含め955名(8年間の累計:8,950名)の参加者があり、お米は二つのNEC田んぼで合計1,170kgを収穫でき、新酒「愛酏で笑呼」(IT、で、エコ)が1,900本分(1本720ml換算)出来上がりました。さらに、牛久市上太田地区の谷津田での再生前後の生き物調査では、トンボの種類や数の増加が確認でき、これからさらにいろいろな生き物で賑わってほしいと期待しています。

■ 活動の主旨と目的

NECグループは「人と地球にやさしい情報社会」の実現に向けて、その基盤作りのために全従業員の環境意識の向上を図っています。NPO法人アサザ基金さんとの協働で開始した「NEC田んぼ作りプロジェクト」は、稲作からお酒作りまでの一年を通じた従業員の自然体験参加型プログラムを提供することで参加者の皆さんが直接自然に触れ、その素晴らしさを感じ、収穫の喜びを分かち合うことによって「モノ作り」の原点を実感していただくと共に、NECが有する「IT・ネットワーク技術」技術を活用して生態系観測や生物多様性保全に貢献する「生態系・生物多様性ソリューション」の開発・実証を目指しています。

■ NECとアサザ基金の協働について

2003年4月から始まったNPO法人・アサザ基金さんとの協働が2012年度で10年目を迎えます。協働当初から最も大切にしてきたのはアサザ基金さんとの「オープンパートナーシップ」です。両者が独自にもっている専門分野のスキルやノウハウを互いに活かし、新しい社会的価値を創り出すことを強く意識してきました。霞ヶ浦流域の谷津田を再生し、「100年後にトキの野生復帰を」という当初からの目標を共有し続けたことで、当時の荒廃が想像もつかないくらい今では「NEC田んぼ」には命豊かな自然が蘇っています。



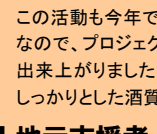
メッセージ

■ NPO法人アサザ基金・代表理事・飯島さん



霞ヶ浦にトキを呼ぶための取り組みがいよいよ本格的に動き出しました。水源地である牛久市では、約1kmある谷津田全体をトキの住める環境に変えるために、NEC社員や家族の皆さんが私達NPOや地域の人達と連携しながら地道な取り組みを続けています。実際にトキが住み続けられる住処を確保することを目標に、事前の調査から計画作り、準備、作業、評価とすべてのプロセスに、社員ボランティアが主体的に関わる前例の無い取り組みです。私達アサザ基金もNECの皆さんと共にこの壮大な夢の実現に向けて挑戦し続けていきます。

■ 白菊酒造・廣瀬専務



この活動も今年で8年が経ち、北の入田んぼも今となっては当たり前風景になりました。これも地元東田中の協力・支援がなければいけないことなので、プロジェクトに関わっている地元企業として深く感謝しています。そして、NEC社員と家族の努力があり、今年も素晴らしい「愛酏で笑呼」が出来上がりました。今冬も昨年も増して厳しい冷え込みでしたが「醗(もろみ)」も順調に発酵し特別純米らしく、濃厚な中にもなめらかなさつとキレのあるしつかりとした酒質のお酒ができました。このお酒が一人でも多くの人に触れ飲まれることを期待しております。

■ 地元支援者・矢野さん



大地震という自然災害、そして原子力事故に振り回された一年でした。被災の当座の後片づけに一月、一年たった今も復旧は終わっていません。幸い北ノ入田んぼへの影響は少なく、田んぼの生きものたちもあるがままに生きることに夢中です。地域からも変わらぬ温かい支援をいただき、かくして北ノ入田んぼも実りを迎えて、すばらしいまざけを醸し出させていただきました。また、イベントでの炊き出し技術はそのまま地元の避難所で活かされた他、宮城県の大津波に大きな釜が貸し出され役に立ちました。自然再生・水質保全という本PJ活動当初からの目的のままだに、田んぼの生きものたちのように、あるがままを大切に田んぼと共に生きていきたいと思っております。

NEC田んぼの四季 (東田中地区、上太田地区)

春 (田植え)

5月14日。牛久市上太田地区において、新しい田んぼのお披露目です。地元文化神社の神主さんに、この谷津田で安全に活動ができるよう、祈願して頂きました。この日は牛久市長さんにもご参加頂き、初めての田植えを行いました。



『田植え(東田中)』



『安全祈願祭(上太田)』

5月26日。石岡市東田中地区の田んぼは活動8年目を迎えました。震災の一日も早い復興を願って、地元の方よりお借りした大きな鯉のぼりを谷津田の谷に渡せました。気持ちよさそうに泳いでいる、鯉のぼりの下で、子どもたちも楽しそうに田植えを行いました。

また、8年間にわたる継続的な活動により、谷津田に沢山の生きものが戻ってきたこと、そしてイベントの炊き出しで培ったノウハウが震災事に地元で役に立ったことに対して、石岡市東田中地区から感謝状を頂きました。

夏 (草取り)



『流し素麺(東田中)』

7月9日。東田中地区の草取りが行われました。朝から気温が上がり、猛暑となりましたが、休憩を挟みながら、何度もみんなで草取りを行いました。

名物となった、巨大流し素麺は前日からボランティアスタッフが汗を流しながら作ってくれます。今年はなんと全長26.4mでした。そして、夜にはホテルの乱舞も楽しむことができました。



『草取り(東田中)』

7月30日。上太田地区の草取りを予定していましたが、前日からの大雨で、残念ながらイベントを中止しました。後日、達人さんによる草取りが行われ、稲は順調に育ち、ホタルが生息していることも確認できました。



『青々とした田んぼ(上太田)』

冬 (酒仕込み)

(新酒蔵出し)



『酒仕込み神事(白菊酒造)』



『酒蔵見学(白菊酒造)』

1月14日。白菊酒造さんにて、高浜神社の神主さんによる、酒仕込みの神事が執り行われました。

神事後は、モロミの香が漂う中、蔵の見学をさせていただきました。収穫したお米がどのようにしてお酒になっていくのか、皆さん興味津々に廣瀬専務からの説明を聞きました。

3月12日。いよいよ、新酒蔵出しです。寒さ厳しい冬になり、たいへん美味しいお酒「愛酊で笑呼」ができあがりました。

参加者の皆さんには、お酒の瓶に一枚ずつ、丁寧にラベルを貼っていきます。この日、貼り切れなかったラベルは、地元の福祉授産施設「あけぼの荘」の皆さんにお手伝いいただいています。



『ラベル貼り(白菊酒造)』

秋 (稲刈り)

(脱穀)



『稲刈り(東田中)』

11月3日(東田中)、11月12日(上太田)に、今年も昔ながらの脱穀機(唐箕、ガーコンなど)と、現代の脱穀機(ハーベスター)を使って脱穀を行いました。

『2011年度収穫量』
東田中田んぼ: 810kg
上太田田んぼ: 360kg

昨年に比べて約180kg多い収穫量になりました。



『脱穀集合写真(上太田)』

10月15日(東田中)、10月22日(上太田)に、それぞれの田んぼで稲刈りを行いました。どちらの田んぼも秋の長雨にぶつかってしまい、とても足下の悪い中での作業となりました。東田中では雨の中での稲刈り。上太田では水が全く引けないまま、水浸しの田んぼでの稲刈りとなりました。みんな体中泥だらけになりながら、一生懸命に稲を刈り取りました。

作業が終わるころには青空になり、どこで見ていたのか収穫を終えた田んぼの上空には、トンボのアカアカネが一斉に集まって産卵する場所を確認していました。

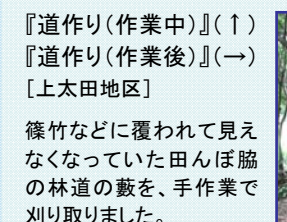
達人さんの活躍

達人コースは、メインのイベント(田植え・稲刈りなど)の合い間の稲作に必要な作業を自主的に楽しみたいという皆さんに参加いただいているプログラムです。現在72組137名の方々が登録しており、参加回数や習得技術によって、「達人」→「達人師範代」→「達人師範」へと昇格する制度になっています。



『一之草(草取り)』(→)
[東田中地区]

「一之草」とは田植え後、初めの草取りのことです。草取りはこの後も2回行われます。



『道作り(作業中)』(↑)
『道作り(作業後)』(→)
[上太田地区]

篠竹などに覆われて見えなくなっていた田んぼ脇の林道の藪を、手作業で刈り取りました。



『堆肥作り』(→)
[東田中地区]

収穫した藁や精米して出た糠をつかって堆肥を作ります。田んぼで採れたものが再び田んぼへ返ります。



『リッツオウ作り』(→)
[東田中地区]

収穫した藁をコヨリのように糺ったものを「リッツオウ」と呼びます。次の収穫の際にこれで稲束を縛ります。



NEC田んぼ(上太田地区)での生きもの調査

2011年度から新たに上太田地区の谷津田を再生するにあたり、復田前後での生きものの変化を確認するため、2010年度の休耕田の状態と、2011年度の復田開始後の四季を通じた生きもの調査を行いました。再生後の谷津田では様々な生きものが見られるようになりましたが、中でもトンボに著しい変化がみられました。

■ 復田した場所での変化

耕作放棄地で雑草が密集していた場所が復田されて水面が現れたことで、植生豊かな沼地を好むトンボおよび広い水面を好むトンボが増加しました。(単位:匹)

| | 種類 | 2010年度 | 2011年度 |
|---------------|-----------|--------|--------|
| 植生豊かな沼地を好むトンボ | ホソオツネトンボ | 0 | 11 |
| | アオモンイトトンボ | 0 | 24 |
| 広い水面を好むトンボ | シオカラトンボ | 2 | 42 |
| | アカアカネ | 1 | 11 |

■ その他の場所での変化

谷津田周辺の雑木林を整備したことで林に広い空間ができ、林内を好むトンボが増加しました。(単位:匹)

| | 種類 | 2010年度 | 2011年度 |
|----------|---------|--------|--------|
| 林内を好むトンボ | マユタテアカネ | 5 | 38 |
| | ノシメトンボ | 97 | 205 |

調査協力: NPO法人アサザ基金

■ トキの餌量調査



トキ1羽が年間に食べる餌量は約75kgとされています。トキが暮らせる谷津田を目指し、復田した田んぼで定期的にトキの餌量調査を行うことにしました。

2011年度の調査では、目標4g/m²の餌量に対して、1.5g/m²と、トキが暮らすためにはまだまだ足りません。これからも復田に加えて、ビオトープ作りや草地作りなど、トキの餌となる生きものたちが好む環境を考えて、谷津田の再生を行っていきます。

気象観測装置 (ウェザーバケットの紹介)



NEC田んぼでは周辺の環境変化をモニタリングするために太陽電池で駆動するセンサーを設置し、温度や水温など7種類のデータを10分単位に測定しています。

本製品は、NEC-NETグループの(株)エスイーシーの製品です。製品の詳細については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.hotweb.or.jp/bucket/>

【谷津田DEアート作品集】

上太田の田んぼでは、幼児向けのプログラムとして田んぼ周辺を散策しながら集めてきた葉っぱや木の実、お花などを使って作る「谷津田DEアート」を行っています。子供たちの自由な発想、そして出来上がった作品の完成度の高さに毎回驚かされます。



『ぷくにつく』



『お花のくつ女の子』



『じゃんぐるぞう』



『うま』



『うさぎ』